

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム めくもり 2号館	評価実施年月日	平成20年6月16日
評価実施構成員氏名	介護支援専門員・計画作成担当者 水上 恵子 1号館 管理者 二俣洋子 2号館 管理者 三浦光枝 介護職員 中田久枝 介護職員 高本恵理子		
記録者氏名	介護支援専門員 水上恵子	記録年月日	平成20年6月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の一人である事を意識し、住み慣れた地域で穏やかな日々を過ごし、時には地域の方々と交流を持つ。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	地域の行事、イベントには職員全員で参加する。又地域から野菜などの収穫に際して声かけをしてもらい、全員で楽しんでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の行事などの参加した時に、話題の中で伝えている。又運営推進会議において地域の方、家族の方などに説明している。家族にぬくもりのたよりなどを通して伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	利用者と散歩、買い物(近くコンビニ・町内の店)などで挨拶し声掛けなどしている。地域の方が犬の散歩コースに入れてくれ、触れ合いが出来ている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事(花見、文化祭、農業祭など)に参加している。	○ ぬくもりの行事にも参加を呼びかけ利用者、家族との交流の場をもっている。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	話あう事もあるが、取り組みまでいっていない。	○ 運営推進会議の中で、地域の民生委員さんとの意見交換でも高齢者との接触は大変難しいものがある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>昨年の改善事項は、話し合い取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>災害対策について今後の検討。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議での意見をふまえ、改善等に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>運営推進委員さんより、タオル、シーツ等の寄贈がありました。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>毎月の市役所への空き室状況等の報告をどうして意見交換などして、お互いにサービスの向上に向け取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>市役所の担当者と常に色々な書類や相談を通して、アドバイスを得ている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>○</p> <p>現在、対象者はいない。</p>	<p>○</p> <p>今後、必要に応じて対応。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>○</p> <p>研修会等に参加し、さらにスタッフ会議でも話あっている。</p>	<p>○</p> <p>マニュアルでの再確認し徹底している。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>○</p> <p>利用契約書に基づき説明し、さらに十分に時間をとり、利用者、家族の話しを聞き、起こりうるリスクなど、納得した上で入所していただいている。</p>	<p>○</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議の中で、利用者の意見も聞き反映させている。又、利用者の日々の変化する行動、言動を察知し、それを運営に反映させている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>家族来所した時、状態の変化した時など、常に連絡を取っている。金銭管理は、利用者さんの自室に管理台帳等を置き、家族の方が来所した時にサインで確認していただいている。又、2ヶ月に1回おたよりを発行し近況報告をしている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱は設置してある。家族が来所した時に要望、不満、意見等があれば、その日のうちにミーティングで話し合い解決し対応する様にしている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に1回のスタッフのミーティングで、意見等を聞き反映させている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>職員数が満たされているので、適正に運営されている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>離職者は極めて少ないが、新しいスタッフが入った時は、顔なじみになってから、シフトにいれる。少人数の移動にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	道・空知ブロックグループホーム協議会等の研修会を受講し、その研修内容をミーティングでスタッフ全員に報告して共有体制を確立している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	隣接しているグループホームとの合同行事や交流する機会を設けている。空知ブロック協議会の事例検討会を通して、意見や経験をケアに活かしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の親睦会を年2回している。1日の中で、気分転換を出来る時間をつくっている。	○ 休憩室がないため、今後の課題。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	スタッフが資格取得に向けた支援をしている。(本人の意向を聞きながら、力を出せる様に努めている。)	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談において、本人、家族より話しお聞き、本人の求めている不安な事等を理解するよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	これまでの家族と本人の状況、サービスの利用状況等を時間をかけて話しを聞く様にしていく。(話しを聞くことで、落ち着いた生活が出来る)	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居希望の方には、見学又家族、本人と面接をし病歴や現在の状況等を話し合い本人の納得するサービスの対応に努める。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居される前に見学を何度かされて、職員や環境に馴染んで頂く様に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者を家族として、喜怒哀楽を共にし本来もっている個性や力を引き出し、共に支え合う関係作りに取り組んでいる。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の訪問は多くありその都度近況等を話し合っている。又、入居者が家族を求めた時は、電話などし、家族の協力を得て問題解決をし、支えあっている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の本人への思い、本人の家族への思いを受け止めて、両者の思いが結びつく様な働きかけを心掛けている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔から利用している美容院や理容院に行き続けている利用者や、命日に毎月お坊さんがお参りに来所したりし、一人ひとりの生活習慣を尊重している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個別に話しを聞いたり、相談に乗ったり、毎日、お茶や食事の時間はスタッフも一緒に食事をしながら多くの会話を持つ様にしたたり、役割活動等を通して利用者同士の関係が円滑になる様な働きかけをしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他の施設に移った方の所に面会にいっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者主体で考え、日々の係わりの中で声をかけ把握に努めている。言葉や表情などから真意を測ったり、それとなく確認している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族から話を聞き、一人一人の生活歴に合わせた日常に少しでも近づく様に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人一人、介護サービス計画書に基づいて生活記録を書き、現状を把握して、出来る事、わかる事、持っている可能性を見出す様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族、本人の困っている事を聞き、ケース会議等で、一人一人のケアに付いて意見やアイデアをだし、それを反映した介護計画を立てている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直し以前の変化が生じた場合は、スタッフが情報を確認してケアマネジャー、家族との話し合いの中で、要望に応じて見直しをする。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフの気づいた事や、利用者の状況変化は個々のケア記録に記入し職員間の情報共有を徹底している。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高める様にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域での暮らしを続けられる様、消防や民生員と話し合う機会を設けている。ボランティアの方が来所した時は、一緒に歌や踊りを楽しんでいる。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	利用者の状況や希望に応じて、訪問美容院のサービスや送迎つき理容サービスを利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとは直接的な係わりは持っていないが、市の介護室とは持っている。	○	今後の課題として、運営推進会議の中で考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望する係りつけ医はそれぞれ持っている。基本的には、家族が同行して受診することになっているが、家族の都合がつかない時には、職員が対応している。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症の専門医(係り付け医)と職員が相談して、適切な診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職と相談出来る職員が日々の健康管理や利用者さんの相談に乗っている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。又、家族とも情報交換しながら回復状況等退院支援に結びつける。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>家族さんの意向を聞き、出来る限りの支援をする。</p>	○	今後の課題。
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医療連携はしていないが、重度化や週末期になる前に係り付け医や家族と連携しながら取り組んでいる</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	別の居宅に移り住む際、これまでの暮らしの継続性が損なわないように生活環境や支援の内容、注意する必要な事など情報の提供をし連携に務めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ミーティングの折に職員の意識向上を図ると共に日々の関わりで、利用者さん一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないような対応を指示している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者さん一人ひとりのペースに合わせて、思いや希望が叶うように心掛けている。押し付けの無いようケアをしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの体調に配慮しながら、買い物や散歩など、その時の思いに気使いながら柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみやおしゃれ心を失わないよう定期的に美容師さんに来ていただいたり、理容室に出かけるなどしている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理、盛り付け、後片付けなど利用者さんと共に行い、職員と利用者さんが同じテーブルで楽しく食事が出来るよう雰囲気づくりをしている。フキの皮むきなどをしたり、ホーレン草狩りに行ったりして、食べる事の大切な活動のひとつにしている。	○	嫌いな物を食べれるように、目先を変えて工夫をしている。お茶わん、はし、など本人の希望する物を使用している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒は本人の希望により飲みたい物をだしている。タバコについては、家族や係り付け医の指示に従っている。吸わせていない。	○	タバコは医師の指示で許可ができれば、家族と相談の上、吸わせるかどか決める。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日頃の状態観察により、排泄に不安のある利用者については、トイレ前後の声かけと、ほぼ定時の排泄チェックにより、パターンの把握に努めている。	○	体調によりパット等も使用することもあるが状況で変える対応
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回入浴日を設け希望する曜日、時間に入浴して頂いている。入浴を拒む人には言葉かけの工夫し、チームプレイ等で入浴支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう支援し、寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながらお話し等したりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの出来そうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。ドライブ、買い物(大型店)、食事(外食)等外出して楽しんで頂いている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持している利用者さんは少数であるが、買物時等、支払が出来る様支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者さん皆さんで散歩、時にはお弁当を持って出かけたりする事もあるが、その日によって一人でもどうしても外出したいとの希望があれば何時でもスタッフ同行で出かける様にしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節の変化を楽しんで実感して頂く様に、お花見や食事会、りんご狩、ドライブ等を楽しんでいる。利用者さんの家族が関われない場合などスタッフが一緒に行く。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話を置いてあり、利用者の希望で先方へ電話をつないであげたり、電話番号のメモを渡したりして何時でも掛けられる様にしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族の訪問は多いが、さらに家族や知人の来所が気軽に立ち寄れるように、入所者と気持ちよく過ごせるように雰囲気づくりに気配りをしている。	○	他の利用者さんと気兼ねなく過ごしてもらえるように、訪問者用スペースを整え居心地の良い空間作りを取り組んでいきたい。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する講習もスタッフ全員が受け、身体拘束を行わない介護上の工夫を管理者と相談しながら行っている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒について行くなどして安全面に配慮し、日中は玄関の鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>スタッフ同士が常に情報を交換しあい把握し、利用者さんに気づかれないよう、アイコンタクトし声かけを行い状態や訴える様子を把握して対応している。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>厳重に保管すべき物、保管管理が必要な物、利用者が使う時に注意が必要なもの等に分けて管理している。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>個々を把握する。誤薬に関しては、個々の投薬内容を把握し服用していただく。火災等については、避難訓練や救急救命指導の受講に取り組んでいる。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>急変時には、救急車とうの対応を地元消防署と連携して、対応。又、非常時の緊急連絡網により対応。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>マニュアルを作成し、利用者と共に避難訓練をしている。地元の消防署の協力をえて行っている。消火器の使い方等の訓練も行っている。地元の協力については、運営推進会議において協力をお願いしている。</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居時に緊急時の説明をしている。命に関わる事、危険が予測される事に関しては声を掛けるなどしている。又、その他に関しては見守り対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>利用者さんの情報を交換し合い、どんな変化でも見逃さないよう記録する。又、管理者に報告し対応に努めている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>受診時の投薬情報をファイルに閉じ、スタッフが何時でも確認出来るようにしてある。服薬の際も間違いがないか確認し、飲み忘れが無いよう見守っている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>運動不足になりがちなので、ストレッチ体操や歩行運動等を行い胃腸の働きを良くするようにしている。又、食事などについては、食物繊維や乳製品を多く取り入れている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の歯磨きの声掛けを行い、できる方、できない方に対してスタッフが見守ったり、介助を行っている。又、就寝前には義歯の洗浄を行っている。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、スタッフが情報を共有しており献立は栄養士さんをお願いし、カロリー計算がされている。水分は何時でも取れるように、お茶などをポットに入れ用意してある。又、夜間も水分を補給できるようにしている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>	<p>詳細な感染マニュアルが作成されている。食事の前、外出から戻った時の手洗いやうがいの励行、又、利用者さんの家族の承諾を得て、スタッフと一緒に「インフルエンザ」の予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、塩素系洗剤で常に掃除をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器、調理器具等の煮沸消毒、まな板、布きんの除菌を行っている。食品の賞味、消費期限が過ぎないように無駄の無く使用するように気お付けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	国道側面入り口に大きな看板(グループホーム)が設置されており、玄関まわりには、ベンチやプランターで花が植えられており、季節感をだしている。サンルームも増設され、お茶を飲んだり、お話をしたり、自由に出入れしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間には季節ごとの飾りつけをして柔らかく暖かい雰囲気作りをしている。その他の共用空間はいつも安心して使用できるよう、大きく変えたりしないで馴染みの場所としている。	○	行事に添った食べ物を利用者と一緒に作り楽しんでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	何時でも利用できるようにサンルームにベンチや小テーブルを置きお茶を飲みながら、風景や畑の様子が見られくつろげる状態になっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前、本人が利用していた物、写真や使い慣れた物を持ち込んで利用者が居心地が良く過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	体調に合わせた温度調整をし、湿度が低い時には濡れタオルや、加湿器等を置いて調整している。気温が高い時には、空気の入替えをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>全館バリアフリーになっており、通路、トイレ、お風呂場等には手すりを設置している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>本人にとって何が分かりにくいのか、どうしたら自分の力でやって頂けるのかを追求し、状況に合わせた対応に努めている。状態が変わった時は、職員間で話し合い本人の不安を取り除き、力を取り戻せるよう支援している。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭に花を植えたり、畑に植えてある野菜の育成を楽しみながら歩いたりして、日常的に活動している。天気の悪い日には、サンルームでくつろいでいる。</p>	

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ●①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ●①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ●①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ●①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ●①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ●①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ●①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ●①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>① ほぼ毎日のように ●② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>●① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>●① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>●① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>●① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
1. スタッフの気配り ① 事故のない生活(ヒヤリハットの減少) ② 利用者の不穏減少 ③ 利用者の活動
 2. 家族への気配り